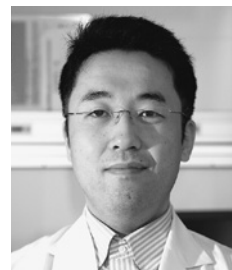


27th European Congress of Radiology (ECR 2015) (1)



長谷川 誠

東邦大学医学部放射線医学講座 (大橋)

2015年3月4～8日にかけてヨーロッパの中心、オーストリアのウィーンで開催された第27回欧州放射線学会議(27th European Congress of Radiology: ECR 2015)に参加しました。欧州放射線学会(European Society of Radiology: ESR)の年次総会であるECRはヨーロッパを中心とした放射線科医・放射線技師の学会で毎年3月第1週の水曜日から日曜日にかけてウィーンで開催されます。会場はウィーン市の中心部からドナウ川を渡り、国際連合や国際原子力機関(International Atomic Energy Agency: IAEA)等の国際機関の建物が並ぶVienna International Centre (VIC)の一角で開かれます。一部の講演はIAEAの建物内でも開かれます。規模として北米放射線学会(Radiological Society of North America: RSNA)の次に大きく、ヨーロッパを中心としています。世界各国から参加者が集まります。本学会では放射線診断・治療の各領域の subspeciality (Abdominal and gastrointestinal, Breast, Cardiac, Chest, Computer applications, Molecular imaging, Genitourinary, Head and neck, Interventional radiology, Musculoskeletal, Neuro, Paediatric, Physics in radiology, Radiographers, Vascular, Oncologic imaging, Emergency radiology) について研究発表、教育講演、シンポジウムが多数開かれます。ポスターは全て電子ポスターとなっています。

今回、私は“Comparison of time-pressure values of injection data among 5 different low osmolar contrast media”という題で造影剤投与時の圧を5つの低浸透圧造影剤で比較した検討をポスターで発表しました。通常は目視のみでの確認で終わる造影剤投与時の圧曲線を数値として取り出し、造影剤間の圧を比較・検討することにより造影剤の血管外漏出を検出することができないか検討した内容でし



学会場はウィーン中心街に近いこともあり、ハプスブルグ家に関連する建物などが多数見られました。また、昼食の時間はウィーン中心街で歴史を楽しみながら食事をすることができました。写真のレストランはウィーン最古のレストランと言われているグリーヒェンバイスル(1447年創業)。レストランの一室に著名人がサインを残しており、ベートーベンやエゴン・シーレと並んで有名な日本人も数人サインが残っています。

た。今回の学会では最新の技術として spectral computed tomography (CT) についての発表が多く聞かれ、その方法論として各社で販売されているCT装置の違い (dual



学会場には世界各国の放射線科医・技師が集まっていました。また、各会場の講演に対して、リアルタイムな感想のツイート等が表示されていました。一部の講演はオンラインで配信されるので、「聞きたかったけれども聞けなかった」講演は後日ゆっくり自宅で聞くことも可能でした。

spin, dual source, twin beam dual energy, fast kV switching, dual layer CT) とそれぞれの方法の利点と欠点や、今後出現が予想される photon counting CT の原理と臨床応用についての講演もありました。特に最近発表された dual layer CT についての詳細な説明がされていました。この技術により artifact の低減や撮影されている対象の material differentiation が可能になると発表されていました。その他に乳腺領域で最新の診断方法として contrast-enhanced spectral mammography や乳腺専用の CT の発表がありました。特に造影 spectral mammography については2つの

エネルギーで撮影することにより背景の乳腺を抑制でき、造影される領域が強調されます。このことにより magnetic resonance imaging (MRI) と同程度の感度および特異度が通常の mammography と同程度の被曝で得られると報告がされており、今後の発展が期待されています。このような最新の技術や研究の発表を聞くことによって今後の画像診断の流れを知ることができました。Scientific session では海外の同年代の研究者の発表と積極的な討論から刺激を受け、今後につながる貴重な時間を過ごすことができました。